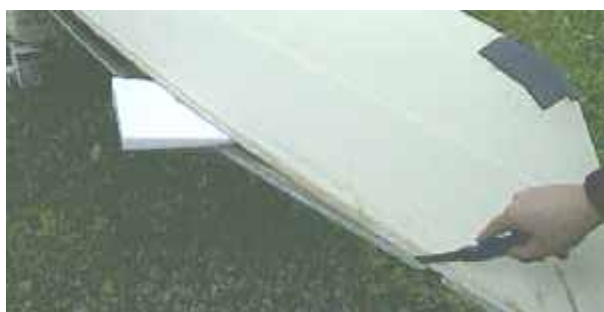


R10-xxx オーシャンスカルの補修
シアライン分離と内部フレームの電食修理
 Repair of Ocean Scull (YAMAHA Row 20-SS)

ヤマハのオーシャンスカル (ROW20SS) で、シアラインが分離し、内部フレームが腐食 (電食) している場合の修理事例。

1 分離・診断

艀装をすべて外し、艇を裏返し、斜めに傾けて接合部 (シリコンコーキング材) に切り込みを入れる。隙間にウェスなどをはさみながら少しだけ開く方向に力をかける。FRP材を傷つけないよう注意する。シリコンだけを切り、挟んだ詰め物で自然に裂けていくのが理想的である。



デッキとハルを分離できた状態。主構造 (浮体、リガーの内フレーム) はデッキ側に組まれ、ハル側には何も無い。分離するとハル側は非常に弱いので、慎重に取り扱うこと。



内フレームは、M6 ボルトをプレートにネジ止めされ、ヘッドをエポキシ樹脂で被覆していたが、隙間から浸水し、腐食が進み強度を失い、分離していた。(1箇所は完全に分離)。



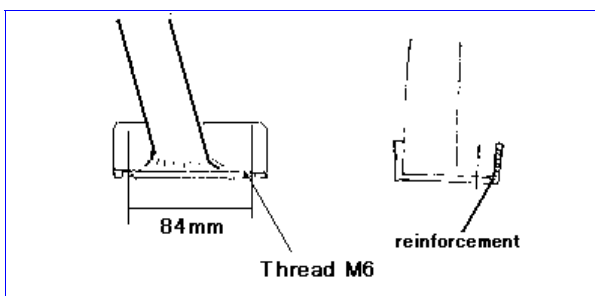
パウボールはネジ止めされている。内側のナットはシリコン止めだけで、一度回り始めると始末が悪い。この部分 (内側のナット) は FRP で固定してしまったほうが良い。ウボールにはデッキの合わせの関係で上下があるので注意。



2 補修

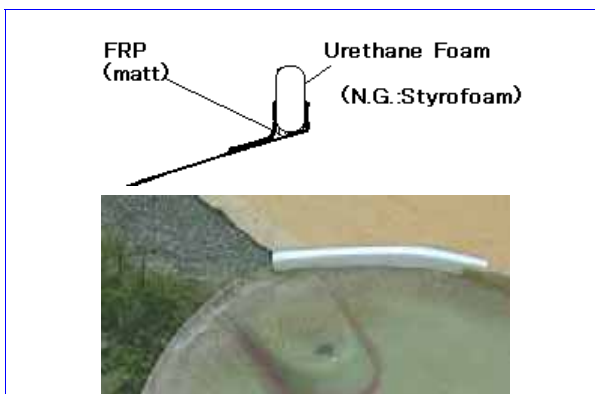
2.1 フレームの補修

腐食したフレームは、ヤマハから部品供給・修理等を引き継いだ (株) 伸孝で入手できる可能性もあるが、ここでは、軽金属溶接を扱う町工場に現物を持参し修理した。補強のため、L字断面からコの字型に変更した。2つ孔は M6 ネジ加工とし、中心間隔は 84mm (実測値)。組み付けた後、(エポキシ樹脂ではなく) シリコンコーキング材でしっかり充填被覆する。



2.2 デッキの洗浄・補修

古いシリコン材をきれいに削除し、一度洗剤できれいに洗浄し、よく乾燥させる。次に、デッキ側の合わせ溝の破損部分にウレタンフォームなどの型材をあて、FRPで再生する。



2.3 貼り合わせ

アセトンで拭き、マスキングテープを貼り、コーキングガンでシリコンを溝に9割程度充填する。ハルをかぶせ、ガムテープなどでしっかり合わせて仮止めし、マスキングテープを剥がす。そのまま、約3日、静置する。硬化を確認した後、ガムテープを剥がし、化粧のプラスチックテープを貼り補修完了となる。

